勇者の休み

一ヶ月も関係を結ぶことが
できなかったせいで、
欲求不満状態の勇者が
皇太子カーアルと二人きりで
休暇を過ごす物語

皇太子のカーアルは
最近、勇者とよく
時間を過ごした

カーアルは
人気が少ない所では
少し大胆に振舞ったり
した

はぁ

あっ…
こんな所で…

ちゅっ…

んっ…

ぞくっ
あ…
ん…
ペロッ
チュッ

パーハッ

もう
戻る時間だな

だが、カーアルは
勇者の体が
熱くなると、すぐ
お別れの挨拶を
してしまうのだった

出会う回数が頻繁になっただけで
最後に関係を結んだのは
もうすでに一ヶ月を超えた日だった

その結果ー

勇者は欲求不満で
体が熱くなり
苦しいくらいだった

勇者は
前のような共寝を
要求しないカーアルが
気になったが
とても聞けなかった

きゅんっ♥

きゅんっ♥

数日後、勇者が期待
すべきことが起きた
カーアルが勇者と
二人きりで休みを
過ごすことにしたのだ

場所は
湖の上にある小島で
皇族と招待だれた人数
だけが入場できる
最もプライベートな
場所だった

お陰で二人は
他人を意識せず
自由に時間を
過ごせた

私についてこい

静かだが
それなりに
見物がある所だ

私は
この近くにいる
珍しい渡り鳥が
休んでいく場所を
知っている

勇者は
ずっと他のコトを
期待しながら
興奮してしまう体を
静めるのに
大変だった

すーっ

ぞくっ♥

て、手を深く
つないでいる♥

ぞくっ♥

なんだか
足に力が抜けて
胸元が
ビリビリする♥

ぎゅっ♥

ここだ

ぎゅっ

もっと
近づいて来い

体を低くして
待つんだ
奴らはものすごく
敏感なんだ

あの平たい石の上に
止まっている姿が
よく見られた

ビク♥

す、すごく
楽しみです
殿下！

！

ち、近い…！

むくっ♥

私の淫乱な考えを
殿下にばれたら、
がっかりするでしょう…

ビクッ♥

静かにするんだ

ビクッ♥

こんなに近くにいると
勃起した私のモノが
殿下の玉体に
触れるかも知れない…！

ヤバイ
うっかり
近寄りすぎた

…

勇者に気づかれ
ないように
しなくては…

ピンッ
ピンッ

触れちゃ
ダメ…

触れたら…♥

実は
勇者の考えとは
違って
カーアルの体も
熱くなっていた

素振りを見せないようにしよう

勇者が先に要求するまで待つことに心を決めたから…

ビク♥

ビク♥

殿下はただ楽しい時間をお過ごしになりたいだけなのに

私は淫乱な考えばっかりして…本当に情けない

あの…

あ…！

殿下…！

パ！

現れました！

殿下も体を
低くしたほうが
いいと思います！

くぱーっ♥

いろんな地方に
行ってみましたが
こんなにきれいな鳥は
初めて見ます！

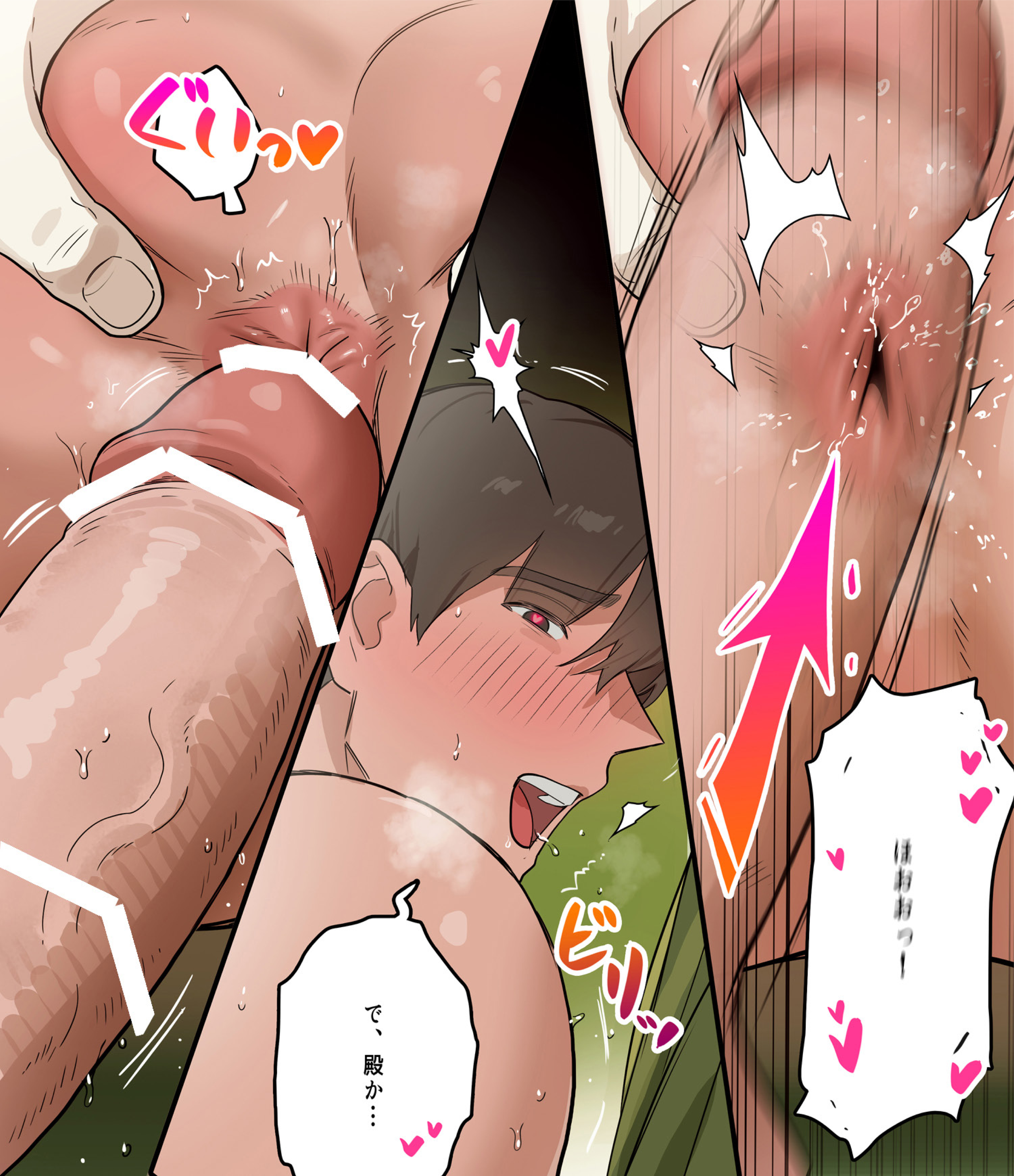
ああ…
勇者…！

おっしゃった通り
本当に
美しい羽ですね！

びく♥

びく♥

ビクッ
!
私は
もう…
おーっ
わあ…


ぐいっ♥
ほおおっ！
ビリッ
で、殿か…

しわが力強く突き上げられている♥

穴が広がりつづけるっ♥♥♥♥

あ、当たった…！

ズボン

あっ♥

固いモノが私の穴に…！コレは多分…♥

ズボン

あっ…！で、殿かっ…おっ…！

ズボン

あはっ♥

ふうっ、

あっ♥

ゆら

んっ♥

はっ♥

ゆら

な、なぜ
スリスリだけ…♥

あっ♥

…けどコレ
キモチイイ♥

シコ
シコ

勇者の中に
少しでも自分の
一部を入れようと
する本能的行動
だった

ぉ

ビクッ

くっ…！

出る…！

ピュッ

カーアルは
勇者の肛門に
自分の尿道口を
ぴったり
押し当てた

うっ…

我慢しすぎて
失礼して
しまった…

はあ

あっ♥

はあ…♥

あ…♥

それでも…
挿入だけは
我慢したから…

ぞく♥

勇者は内心で
それ以上のコトを
待ち望んでいたが
それだけだった

なのに
どうして殿下は
こするだけ…

何か少し
体の中に
入ってきた…♥

その夜

君が使う
寝室だ

私だけ…？

別々に…
寝るのか…？

あ、はいっ…！

お……
お休みなさい
殿下…

カーアルの前で
勇者は最後まで
見栄を張った

言絶し
しかし
絶対に
言えない…！

…別の用なら
あるけど…

あの…

では
私は行くと
しよう

隣の部屋に
いるから
用があったら
呼びなさい

あ…！

いいえ！
私なんかが…

あえて私の用
なんかで
殿下を煩わせ
るわけには…

その結果ー

んっ♥

んぐ♥

勇者は一晩中
自分を慰めた

んはっ♥

ごし

ぱくっ♥

ぱくっ♥

ごし

はっ♥

しかし、最も
イライラする所を
満たせない哀れな
もがきだった

ふぁ…♥

びくびく

は…♥

一晩中
オナニーしたのにも
足りない…

結局
勇者は静かに
屋敷を抜け出し、
夜明けの湖に
身を浸かって
熱を冷やした

冷たい水の中で
しばらく時間を
過ごすと少しは
熱気がおさまる
ようだった

しっかり
しよう…！

ざあ

はあ

何だ
あいつは！

淫乱な考えから
逃れるんだ…！

無断侵入では
ありません！

む、

ひ、人…!?

私は
皇太子殿下の
連れとして
来ました…！

そんな話は
聞いていない！

直ちに
両手を挙げて
水の外に出ないと
即決処刑だ！

どうやって
ここに入った?!

ここは
皇室の御料地だ！

まさか私、
湖の向こう側まで
来てしまったのか…！

…

よくも恐れもせず
全裸で皇室の
御料地に
足を踏み入れたな…

ふ、服は…

向こう側に
ちょっと脱いで
置いたので…

ほお…

ぶら

こんなモノを
湖に浸かって
皇室を冒涜するつもり
だったのか？

身体検査を
した後、すぐに
報告しようぜ

し、しつこい…

うっ…

ふう…

伏せろ

ぎゅっ

皇室の御料地だからもっと徹底的なのか

もみもみ

…！

ここに何か
危険なものを
隠す奴らが
たまにいる

うっ…！

さあ
力を抜け

くぱぁ♥

あ、
アソコは何も
ありません…！

それは
見ないと
分かんない

あ……

カァ～♥

うぐっ…！

ぐぐっ

たっぷり
弄んでやる

ふっ

バカな奴…
実は手前が誰か
既に知っている

噂通り
何をされても
反抗しないな

い、
イヤだ…！

ビクッ

ここでだけは…
決して…

ビクッ

あふっ…

殿下！

勇者は
朝っぱらから
どこへ
行ったんだ？

まさか
何か起こったの
では…？

これは
いったい…

何
があったんだ…？

ちゅっ…

ぎゅっ

ちゅ

ん…

パーア

殿下
こっちへ…！

だあ

…勇者…

殿下と…
触れたくて
たまりません
でした…

殿下…

ビクッ

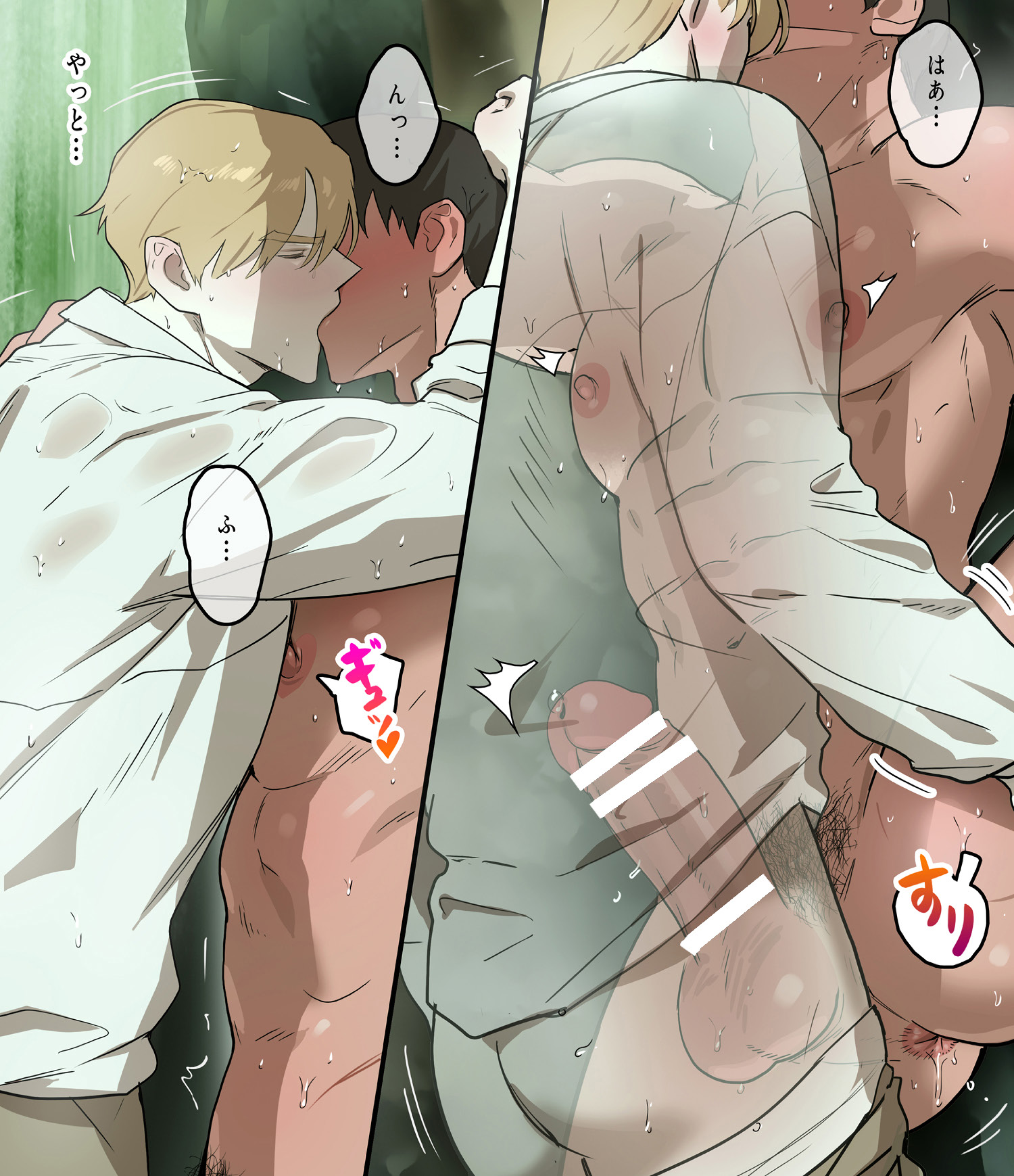
ざあー

どうか…
私の中に
入ってください…

…

私はずっと…

ギュッ


はあ…
んっ…
やっと…
ふ…
ギュッ♥
すり

んふっ！

ずっ

うむっ…！

ポン

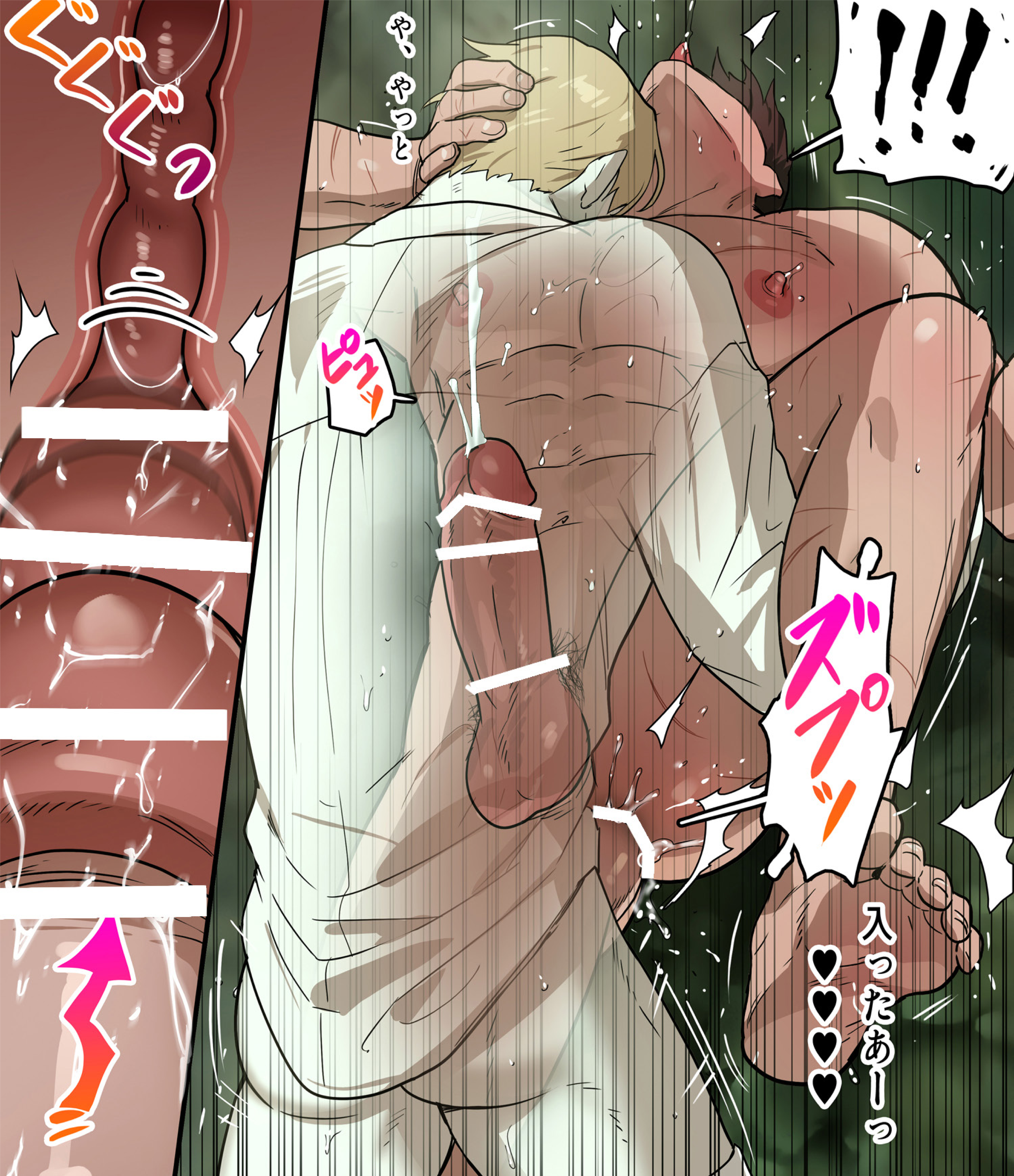
ずっ

んっ…！

ん♥

ドン

ビク。


!!!
や、やっと
ピュッ
ズプッ
入ったあーっ♥♥♥♥
ぐぐぐっ

ぐしっ♥

ルーク…

ふっ…

ズプン

うぐっ♥

ハゲシイ♥♥♥♥

ズプッ

名前…呼ばれた…♥

ギュ～ン♥

…！

ふぐっ♥

ン♥

ズブッ

あ♥

全部抜け出て深く入り込む♥♥♥♥

ふっ…

ルーク…

ちゅっ♥

むっ…♥

んっ♥

ちゅっ♥

はっ…♥

…あっ♥

ビクッ

ん…！♥♥♥

ビュルルル

分お絶欲長
長い間
欲求不満だった二人は
絶え間なく
お互いの温もりを
分かち合った

その後
残った休暇期間の間
カーアルと勇者は
毎日トロトロ♥して
楽しい時間を過ごした

そして…

二人の兵士は
あの日、気絶したまま
見つけられた

END